

分収造林「たずさえの森」事業

昭和57年から実施

- 背景
- ・林業の衰退による森林の荒廃、公益的機能の低下
 - ・林業関係者の高齢化
 - ・長良川の水量の減少

- 目的
- ・森林の公益的機能の回復
 - ・長良川の豊かな水資源の保全
 - ・長良川上流域自治体と下流域自治体の連携と交流

- 課題
- ・林業の活性化
 - ・上流域の林業関係者のみの努力だけでは限界

○対応策

- ・長良川の恩恵を受ける下流域の自治体が、上流域の自治体と共に手をたずさえながら森林整備を図る
- ・林業活性化のための支援や、木材需要の拡大推進

○実施方法

- ・長良川上流域の自治体が土地を提供
- ・岐阜市は森林整備に必要な費用を負担
- ・成林後、伐採してその収益を分配
- ・契約期間は60年～110年

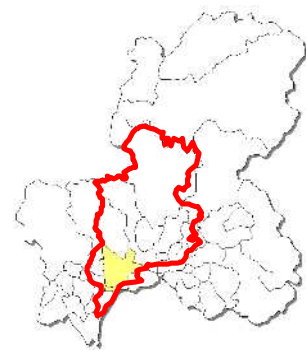
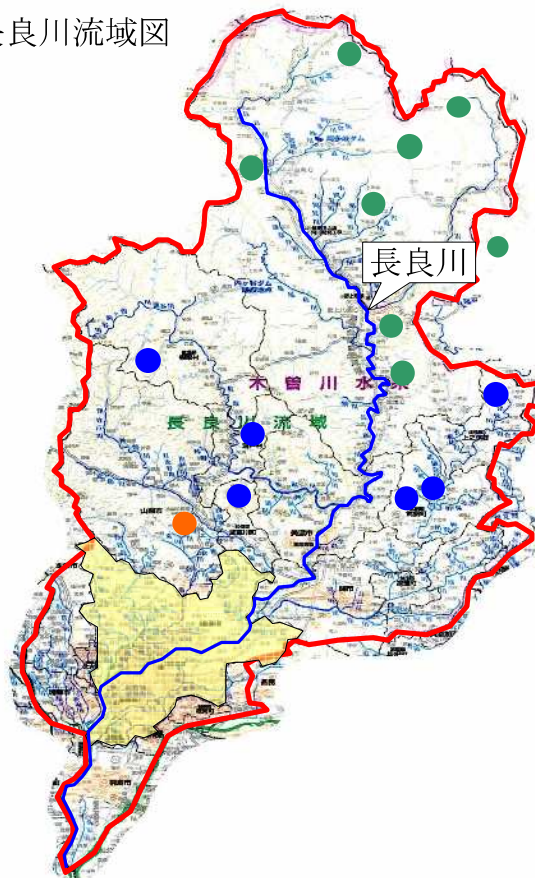
○現在は、植栽後20年を経過し

- ・植林作業から枝打ち、間伐等の育林作業へ

間伐作業に汗を流す中学生



長良川流域図



— 長良川流域

■ 岐阜市域

契約締結面積及び場所

●	郡上市	26.66ha	(8箇所)
●	関市	38.56ha	(6箇所)
●	山県市	4.66ha	(1箇所)
	計	69.88ha	(15箇所)